

GK情報レポート

【2009年発行】

vol. 20

春号

発行者

権田金属工業株式会社 営業部

神奈川県相模原市宮下1-1-16

電話 042-700-0221

FAX 042-700-0660

E-mail: eigyo@gondametal.co.jp

http://www.gondametal.co.jp

Contents

1. 神奈川県新技術・新工法展示商談会
2. 機械加工品について
3. 快削以外の黄銅棒のご紹介
4. 銅コイル材のご紹介
5. 展示会のご案内
6. GK ギャラリー：新入社員紹介
5. GK 沿革（18回）『グループ企業』
6. 相場情報『2009年第2四半期見通し』

皆様でご回覧下さい。

回 覧 印										
-------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

※バックナンバー（Vol.1～19）をご用意しております。ご希望の方は当社営業部までお気軽にお問い合わせ下さい

権田金属工業株式会社

1. 神奈川県新技術・新工法展示商談会

日時：2009年2月19日（木）、20日（金）

会場：トヨタ自動車株式会社サプライヤーズセンター

主催：トヨタ自動車株式会社・神奈川県新技術・新工法展示商談会実行委員会

出展企業は全55社、神奈川県産業振興センターが行なっている事業で、神奈川県R&D推進協議会に所属する企業が出展しました。

当社はマグネシウムの薄板製造技術が認められ同協議会に所属しています。

展示会には評価の高まりつつある、当社独自開発のマグネシウム合金の薄板製造技術から生まれた展進材及びプレス成型品のサンプル、レーザー加工品のサンプルを展示しました。

展示会にはトヨタ自動車(株)岡本副会長(技術担当)、二橋専務、役員の方々が当社ブースを訪れ、マグネシウムの関心の高さが伺えました。

関連会社の方々も多数訪れ、マグネシウムの説明に耳を傾けていました。

両日の入場者数1,164名、当社ブースには89グループ・119名の方が来られました。

ご来場者の皆様が自動車産業に関わっている方であり、将来自動車にマグネシウムの使用が大幅に増えることを期待させる展示会でした。



神奈川県R&D推進協議会の取組

- ・大企業から県内中小企業への技術移転
- ・県内中小企業のオンリーワン技術の大企業での活用
- ・産学公連携等による共同研究
- ・人材育成

(記者 高安)

2. 機械加工品

① リング材のギア加工

当社では銅、黄銅素材のリング材の製造を得意としております。

リング材の主な用途は電車や産業機械のモーターの部品です。

モーターはリング2枚にローターバーと呼ばれるバー材を組み合わせて製造されています。

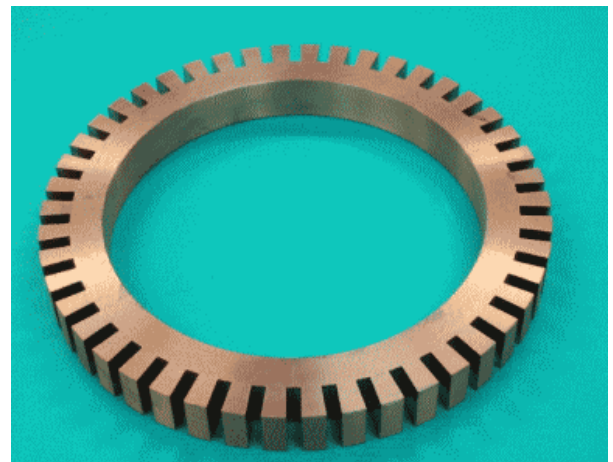
バーを組み込む際には、リングにギア形状の加工を施し、その溝部分に挟み込みますが、

当社ではユーザー様のご要望により、社内でリングのギア加工まで行なって

納品しています。

このギア部分は、高い加工精度を要求されますが当社製品は好評を頂いております。

リング材は銅、黄銅の他、アルミやステンレスのリングも製造しております。



② パイプ加工

当社は 1,000t油圧プレス機を所有しており、これを使って大径の鍛造棒を製造しています。

またこの製造ノウハウを利用して、パイプ形状の中空鍛造による棒を製造しております。

大径のパイプ形状棒を製造するには、もう一つの製造方法があります。

まず無垢の丸棒を製造してから内径の BTA 加工(特殊なドリルで穴を孔ける加工)を行う

方法です。当社の鍛造棒の製造技術と BTA 加工技術を組み合わせる事により、大径で

かつ様々な肉厚のパイプ形状の棒を製造する事が出来ます。

さらに加工精度に優れたホーニング加工(パイプ形状棒の内径を再加工する事)を行なう事により、厳しい公差に対応する事が可能です。

当社では内径公差 $\pm 0.02\text{mm}$ まで対応した実績があります。



③ 切削機械加工

液晶パネルやプラズマディスプレイ等の製造に使用されるスパッタリング装置(金属薄膜成形装置)には、バックングプレート(主に円形)という部品が使われます。

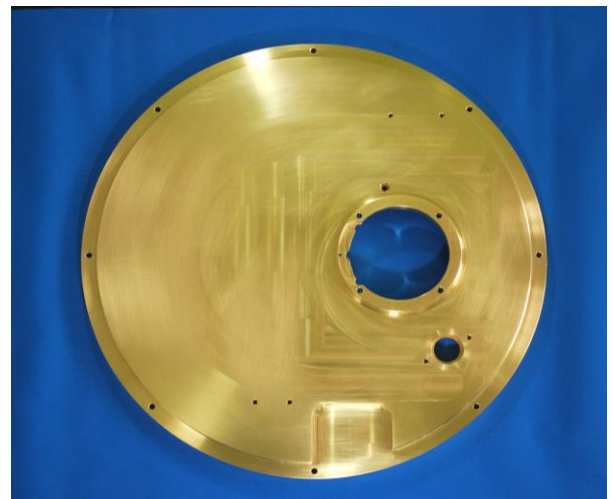
冷却性が求められる場合は、水冷式のバックングプレートもあります。

水冷式のバックングプレートは、バックングプレート自体に水路となる溝を掘り、フタをして使用します。

このバックングプレートの素材には当社で製造している銅、黄銅が採用される事が多く、当社ではこの材料の鍛造だけでなく表面や水路部分の切削機械加工まで行なう事が出来ます。



銅



黄銅

(記者 日吉)

3. 快削以外の黄銅棒

当社の黄銅棒は、快削黄銅棒ではありません！！

鍛造用黄銅棒、ネーバル黄銅棒、高力黄銅棒の製造・販売も行っています。

また環境問題に対応した低カドミウム黄銅棒の製造・販売も行っています。

◆ 快削以外の黄銅棒の種類

① 鍛造用黄銅棒

C3771BD-F, C3712BD-F(50φ～110φ)、C3771BF-F, C3712BF-F(115φ～)

特徴: 切削性、精密鍛造に優れています。

用途: バルブや切削加工での部品等の製作に適しています。

② ネーバル黄銅棒

C4641BF-F, C4622BF-F(115φ～)

特徴: 耐食性、特に耐海水性に優れています。

用途: 熱交換器、船舶用部品等の製作に適しています。

③ 高力黄銅棒

C6782BF-F(115φ～)

特徴: 高強度で耐食性、熱間鍛造に優れています。

用途: 船舶用プロペラ軸やポンプ軸、機械部品等の製作に適しています。

ネーバル黄銅棒、高力黄銅棒は規格が厳しい船舶用部品等にも使用されています。

快削黄銅棒の標準サイズ(50φ～)は在庫販売を行なっていますが、

鍛造用黄銅棒、ネーバル黄銅棒、高力黄銅棒は全サイズ受注生産となります。

◆ 低カドミウム黄銅棒

環境問題が世界的課題となっている今日、地球環境にクリーンな製品づくりを重視する企業はイメージアップにも繋がるとして、当社の太物低カドミウム黄銅棒の製造・販売の比率は高くなっています。用途では、電子機器・光学機器・測定機器・電機機器・その他産業機器の部品材料に採用されています。

材質は快削黄銅、鍛造用黄銅、ネーバル黄銅、高力黄銅と当社の製造・販売している黄銅棒の全種類、サイズで対応することができます。また丸棒だけでなく、フリー・型打ち鍛造品、切削加工品での製造・販売も対応します。

「RoHS 指令」・「REACH 規制」といった環境規制は、より一層厳しくなっており、環境規制への対応に関するご相談を承っています。

低カドミウム黄銅棒の製造・販売は受注生産となっています。ロット、納期、価格等については当社営業部までお問合せください。

(記者 工藤)

4. 銅コイル材

当社では素材の断面積よりも大きい製品を連続的に押出すことが出来る、コンフォーム押出機を使い、コイル材を製造しています。

銅コイル材の主な用途は電気部品、ヒートシンクなどです。

コンフォーム押出機により、最大1コイル2tまでの銅平角、銅丸棒のコイル材を製造することができ、順送プレスなどの連続加工時の省力化に寄与します。

- ・ 品種 … 無酸素銅、銀入り無酸素銅
- ・ 調質 … H、1/2H、1/4H、O
- ・ サイズ
 - ① 銅丸棒 6Φ～18Φ



2.1×14×コイル 1コイル 50kg

- ② 銅ブスバー
標準サイズ

(単位 mm)

2×10	2×15	2×20	2×25	2×30	2×35	2×40
3×10	3×15	3×20	3×25	3×30	3×35	3×40
4×10	4×15	4×20	4×25	4×30	4×35	4×40
5×10	5×15	5×20	5×25	5×30	5×35	5×40
6×10	6×15	6×20	6×25	6×30	6×35	6×40

- ・ 巻き方

ドラム巻き、重ね巻き

お客様の加工する設備に合わせたコイルの形状で多様なニーズにお応えします。

また、1コイル 50kg などの小分けも対応いたします。

銅コイル材に興味をお持ちの方は是非とも当社へご相談下さい。

(記者 工藤)

5. 展示会のご案内

第13回機械要素技術展

会期:2009年6月24日(水)~26日(金)

会場:東京ビッグサイト(江東区有明)

主催:リードエグジビジョンジャパン株式会社

当社は「茨城マグネシウム工業会」の展示ブースに独自に開発したマグネシウム合金薄板のサンプルを展示します。

併催でバリ取り・表面仕上げフェア 専門セミナーや同時開催で第20回設計・製造ソリューション展、第17回産業用バーチャルリアリティ展も行なわれます。

当技術展は去年643社が出展、32,259名が来場した展示会で、機械要素・加工技術を一堂に集めた日本最大の専門技術展です。

皆様のお仕事のお役に立つ展示会だと思いますので、是非ともご来場下さい。

(記者 日吉)

6. GK ギャラリー：新入社員紹介

当社では将来の更なる発展の為に毎年新入社員を採用しています。

100年に一度といわれるほど悪い経済環境ですが、今年は昨年より4名も多い7名の新入社員を迎えました。

新入社員は現在製造部各係の他、総務部、営業部での研修中で、外部機関での研修にも参加します。研修終了後の新入社員は、製品開発が進むマグネシウム部や品質向上の鍵を握る品質管理課等の各部署に配属される予定です。

(記者 日吉)



7. 権田金属の沿革

初代社長権田藤三郎の養子となった信子の弟権田省吾氏は、株式会社権田地銅店を昭和32年1月設立して、地金商を開業しました。

権田金属工業株式会社は株式会社権田地銅店を黄銅材料の主仕入先として、すこぶる親密な関係にありました。権田省吾氏は商才に長け、年商も増加の一途にあつて繁栄していましたが、病魔に犯され昭和56年12月急逝しました。51歳でした。

社長の死去に伴い、権田地銅店は地金商を廃業しました。権田金属工業株式会社は、株式会社権田地銅店に代わって、黄銅材料を仕入する相模金属株式会社を昭和57年7月設立しました。これに先立ち、権田金属工業株式会社は第1、第2権田ビル建設による不動産管理に進出し権田総業株式会社など関連企業を相次いで設立しました。

権田総業株式会社(不動産賃貸、ゴルフ練習場「ボールパーク」運営)

権田運輸株式会社(権田金属の製品運送)

相模金属株式会社(権田金属の材料買入れ)

横浜伸銅株式会社(伸銅製品の販売)

80周年記念誌「あゆみ」より

8. 相場情報

1、電気銅建値推移

09年1月・・・340円スタート(1月平均 338.9円)

09年2月・・・330円スタート(2月平均 352.6円)

09年3月・・・380円スタート(3月平均 413.8円)

09年4月・・・450円スタート

2、LME在庫状況及び需給状況

LME指定倉庫在庫は昨年末から増え続け、1月21日には40万トン、2月6日には50万トンを突破したが、2月26日の54万8400トンをピークに、徐々に在庫量は減り続け、4月初頭の時点で在庫量は50万トン前後の状況。

世界同時不況下で中国も民需は振るわないが、4兆元の景気対策が動き始めており、電力、鉄道といったインフラ関連需要は好調。又、日本の中国向けの電気銅の輸出も依然好調である。只、その中国経済の好調さも世界経済を引っ張るには力不足であり、世界的に見ればまだまだ需要の回復は見えない状況である。

銅の供給面では昨年秋から年末にかけて、閉山や新規鉱山の稼働延期が集中し、供給が大幅に削減されたものの、供給減を上回る消費の落ち込みは避けられず、今後も当面は供給過剰は継続すると見られている。

但し原油相場と同様に銅相場も底を打ったとの見方もあり、今後乱高下の可能性はあると思われる。

3、為替の見通し

金融危機に端を発した円高ドル安の傾向だが、ここに来て徐々に円安の方向に振れ始めている。米議会では7,890億ドルに及ぶ景気対策を打ち出したが、日本は目新しい対策はいまだ打ち出せていない。今後も両国の景気対策の充実差が徐々に為替に影響してくると思われる。米国が3月23日にも発表した最大1兆ドルの不良資産買取を目指す、不良資産処理策(バッドバンク構想)が、投資家のリスク許容度の改善へ繋がると市場で受け止められれば、今後さらに円安ドル高は進む可能性も考えられるが、一方では自動車産業支援に前向きだったオバマ政権が3月末にGM・クライスラー両社の再建計画に不合格を出し、破綻処理も念頭に入れた抜本的な立て直しを迫るなど、依然米国も不安定要素を抱え込んでおり、GM・クライスラー両社の新たな再建計画の回答次第によっては、また円高ドル安に戻る可能性もある。

4、相場の見通しと予測

2009年年初から3,000ドル/t強で推移し、2月には3,200ドルから3,400ドル台で主に推移。3月後半にはついに4,000ドルを突破した。

産銅各社の大幅な減産傾向は今後も当面続くと見られているが、その反面、需要面の回復材料が不透明なため、急激な相場高騰は今後も考え難い。

但し、2008年12月24日の2,770ドル/tが大底と見る見方もあり、去年までのような暴騰はないものの、今後乱高下する可能性もある。

短期予測(1M) LME 3,900~4,500 為替 98~105円
銅建値 430~520円

長期予測(3M) LME 3,800~4,700 為替 97~107円
銅建値 420~550円

(記者 高橋)

